

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 2 月 18 日作成)

委員会名	農村計画情報交流小委員会	主 査 名：後藤春彦
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会	委員長名：伊藤庸一
設 置 期 間	2002 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	国内外の農村計画上の学術情報交流の拠点を形成する わが国の農村集落のデジタルアーカイブを作成する 農村集落における国際的なデザインワークショップを支援する 上記を遂行するにあたって、広く公開研究会や現地交流会を開催すると共に、共同研究企画、出版企画を行う。	
委員構成 (委員名(所属))	河野泰治(福岡大学)、伴丈正志(長崎総合科学大学)、瀬戸口剛(北海道大学)、田代久美(宮城大学)、山崎義人(神戸大学)、梶島邦江(埼玉大学)、石井大五(フューチャースケープ)、後藤春彦(早稲田大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2004 年度予算	165,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	5月8日 6人
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>見学会の開催 「信州を訪ね、住民自治を問いなおす」(5/8-9)参加者14名 平成の大合併とよばれる自治体再編の大きな動きに抗するように、旧村や集落を単位とする小さな「住民自治」組織のあり方についても模索されている。この見学会では、長野県野沢温泉村の住民自治組織「野沢組」の活動について、まちづくりのリーダー的な役割を担ってきた河野正人さんよりレクチュアを受けるとともに、現地見学を行った。</p> <p>大会PDの開催 「住民自治の表現としての地域デザイン」(8/30)参加者68名、資料完売 大会会場である北海道を事例として、道州制と中空知地域の住民自治の特色についての報告を受けた後、全国で展開されている住民自治組織の活動をレビューするとともに、欧州で先進的に進められている事例として、イタリアと英国スコットランドを取り上げ、討論を行った。</p> <p>「住民自治」をすすめるための空間的スケール、「住民自治」が担うサービス機能、合意形成・意思決定の方法の3つが論点として整理された。</p> <p>国際セミナーの協力 「ポロブドール地区の文化的景観保全と村づくりに関する公開セミナー」 「EU Spatial Planning Seminar」</p> <p>委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajj.or.jp/nouson/s0/</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>市町村合併を背景に、旧村・集落を単位とする住民自治について、2004年度より研究してきた成果について、見学会と大会PDというかたちで社会に還元する事ができた。また、農村集落を対象とする国際的なデザインワークショップを行うための第一弾として、近畿支部農村計画部会に協力するかたちで国際セミナーを開催した。</p>
その他評価すべき事項	見学会には多数の若手研究者が参加した。